

# 福岡大学西新病院ニュース

Fukuoka University Nishijin Hospital

2018 vol.02 秋号



## 開院半年を迎えて



福岡大学西新病院  
副院長

かつだ ようすけ  
勝田 洋輔

平成30年4月に福岡大学西新病院(以下西新病院)が新しい船出をして、約半年が経ちました。その出港は慌ただしいものでしたが、前身の成人病センターからの古参のクルーと新しく着任したクルーが力を合わせて、患者さんの診療に日々奔走しています。

さて西新病院は福岡大学の分院として高次機能の内科・小児科の専門病院としてスタートしました。その特化した機能を周辺の診療所・病院と力を合わせて、子どもからお年寄りの患者さんまで24時間体制で福岡市西部地区の医療に貢献するように日々の診療を行っています。

具体的な診療の内容を紹介しましょう。診療科は従来の消化器内科・循環器内科・糖尿病内分泌代謝内科(以下糖尿病内科)・健診部門に呼吸器内科と小児科が新たに加わっています。

消化器内科は、福岡市内でも有数の胃カメラ・大腸カメラ件数を誇ります。また2名の肝臓専門医が肝臓の専門的治療に携わっています。

循環器内科も専門的な心臓の冠動脈カテーテル検査・治療(いわゆる風船治療)や不整脈の専門治療を含めて幅広い疾患をカバーしています。

糖尿病内科は日進月歩の糖尿病治療を先取りしながら生活習慣病の丁寧な診療を行っており、呼吸器内科では気管支鏡を用いた最新の診療を提供しています。

小児科は周辺の小児科医クリニックと連携し入院診療に特化することで地域の小児科医療の安心に大きな貢献をしています。

また、健診部門は地域住民の健康を守るため、これまで以上に健診部門に力を入れています。今秋には博多駅に隣接したKITTE博多にある「福岡大学博多駅クリニック」と協力し、婦人科健診を取り入れて、より一層健診部門の充実をはかる予定です。

私たちは、地域の皆さんのかけがえのない健康を守るため、かかりつけの先生や周辺病院と協力しながら、地域に信頼される医療を提供していく所存です。

### 基本理念

## 「地域に信頼される医療の提供」

私たちは、地域の皆様のかげがえのない健康を守るための医療を提供します

### 基本方針

- (1) 断らない医療の推進
- (2) 地域医療連携の推進
- (3) 質の高いチーム医療の提供
- (4) 先進的な医療の提供と創造的な医療への取組み
- (5) 健康寿命維持のための健診事業の推進
- (6) 安心・安全な医療の提供
- (7) 地域医療に貢献できる医療従事者の育成



## 消化器内科

消化器とは摂取した食物から栄養素の吸収、貯蔵を行い不消化物の運搬、排泄を行う器官群の事で消化管(食道、胃、小腸、大腸)と肝・胆・膵臓の実質臓器からなります。消化器に起因した様々な病気を診るのが消化器内科の医師です。当科を受診する患者さんの症状は腹痛が最も多く、それ以外に吐き気、嘔吐、下痢、下血、便秘、腹部膨満感、背部痛、食欲低下等の様々な訴えがあります。また、消化器以外の患者さんを診察する場合も多く、産婦人科(妊娠、子宮外妊娠、卵巣腫瘍、子宮内膜症等)、腎泌尿器科(腎尿管結石、腎盂腎炎等)、循環器科(心筋梗塞、大動脈りゅう)の疾患でも腹痛を訴えて消化器内科を受診される場合があります。頻度が多い消化器疾患として消化管の悪性腫瘍、感染性腸炎、腸閉塞、胆石症、膵炎などが挙げられますが、「急性腹症」(急な腹痛で発症し、時に手術が必要な腹部の急性疾患の事)の中には診断が遅れると重症化して命を落とす場合もあり、早期に疾患を鑑別し、検査を進め、早期に診断して速やかに治療を開始したり、または然るべき専門の科に紹介する事が重要です。現在、当科は消化管4名、肝臓2名の計6名の医師で日常診療を行っています。6名中4名の医師は福岡市医師会成人病センターから引き継ぎ診療に従事しています。

今年4月から福岡大学病院の分院としてスタートしましたが、従来通り消化器内科の一般外来、急患(急性腹症、上



下部消化管出血、急性肝障害など)対応、胃・大腸内視鏡検査、胃・大腸腫瘍の内視鏡的治療、内視鏡検診(市の胃がん検診、企業健診、人間ドック)も継続して行っています。さらに、消化管出血時の緊急内視鏡は24時間体制で積極的に行っています。

今後、開業医の先生方、他の医療機関とのさらなる連携を強化していく所存ですが、特に近隣である早良区の住民の皆様には積極的に当院を利用していただきたいと考えています。受診前に疑問点、不明な点がありましたらまずは外来へお問い合わせください。

今後皆様のご期待に添うよう専心努力してまいります。今後とも消化器内科をよろしくお願い致します。

消化器内科長 山口 真三志

## 呼吸器内科

福岡市西部地区、糸島圏内において、呼吸器内科専門医の常勤する施設は少ない現状があります。平成30年4月の福岡大学西新病院開院に伴い呼吸器内科が新設されました。外来診療は月曜日から金曜日まで毎日行い、また入院精査加療も行っております。

呼吸器内科が診る疾患は肺や気管支、胸膜の病気ですが、呼吸器感染症(細菌性肺炎、非定型抗酸菌症等)、肺癌、気管支喘息、COPD(慢性閉塞性肺疾患)、肺線維症(間質性肺炎)など様々な疾患があります。

発熱、<sup>がいそつ</sup>咳嗽、喀痰が続く場合、胸部X線撮影で肺癌が疑われる場合、血痰が出る場合、労作時や安静時に息切れを認める場合等で、呼吸器疾患が疑われた場合は御遠慮なく来院してください。必要に応じて血液検査、胸部X線検査、胸部CT検査、呼吸機能検査、呼吸器内視鏡検査などを行います。

当院の特徴としましては受診時当日に胸部CT撮影が行える事です。肺癌を疑った場合は迅速に検査を行い、気管支内視鏡検査が必要な場合は患者さんへの身体的

負担の少ないよう努めています。

気管支喘息、COPD(慢性閉塞性肺疾患)、肺線維症(間質性肺炎)などの疾患は息切れを伴う病気ですが、重症化すると血液中の酸素が欠乏してきます。早期に診断し、適切な治療方針を立てることが大切です。

今後も地域医療に貢献していきたいと思っています。どうぞ、西新病院の呼吸器内科を宜しくお願い致します。

呼吸器内科長 白石 素公



## 看護部

看護部は7月1日より組織体制を一新し、新たなステージを迎えることになりました。これに伴い、この度看護部長を拝命した椎葉 優子と申します。宜しくお願いいたします。

福岡大学西新病院は地域の皆様に貢献するための病院であり、病院の基本理念である「地域に信頼される医療の提供」に応え、「人間性豊かな患者中心の看護 誠実-責任-創造」を看護部理念として心を入れて患者さんに寄り添う看護を実践していく所存です。

病院職員の中で最も多くの人員で構成されている看護師は、多職種と相互理解・相互信頼・相互尊敬の観点に立ち、多くの人の意見を柔軟な心で聴き、病院における調整

役としての重要な役割を担う必要があります。調整役としての役割を発揮するために必要な高いレベルの看護の知識、実践力の習得に努め、人が育ち、人を育てることのできる活気ある看護部を目指しております。

私たちは、地域の皆様に対しあたたかい医療・看護を実践できるよう、心を入れた笑顔でお迎えいたします。



看護部長 椎葉 優子



## 栄養管理科からのおすすめレシピ

### 「秋のきのこのミニ☆キッシュ」 ～餃子の皮で簡単！フランス料理～

ちょっと小腹がすいた時、甘いものより、良質のタンパク質とビタミン・ミネラル・食物繊維が取れるキッシュはいかがでしょうか？餃子の皮さえあれば、あとはお家にあるもので手軽にできます。子どもたちや高齢者のおやつにもぴったり！

糖尿病などで間食を控えなければいけない方にもおすすめです。



#### ● 材料（10個分）

- 餃子の皮..... 1パック(30枚)
- 生地
  - 卵..... 2個
  - 牛乳..... 140cc
  - コンソメパウダー..... 小さじ1(3g)
- 具
  - 茹でたきのこ(エノキ・しめじ・生しいたけなど)
  - 茹でたほうれん草、トマト、ハム
  - (冷蔵庫の残り野菜が使えます)
  - ..... 各30gずつ
- 溶けるチーズ..... 50g
- 油やバター..... 小さじ1(6g)
- アルミカップ..... 10個  
(直径6cm程度・型崩れしにくいもの)  
小さな耐熱器やシリコンカップでもOK!

#### ● 作り方

- ① 具材を小さく刻む。
- ② 生地の材料をすべて混ぜ合わせる。
- ③ アルミカップに薄く油を塗り、カップ1個につき餃子の皮を3枚重なり合うように広げて敷きつめる。
- ④ ③に①の具材を入れ、②を8分目まで注ぐ。
- ⑤ ④の上に溶けるチーズをのせ、アルミホイルで上を被い、オーブントースターで10分焼く。
- ⑥ ⑤に爪楊枝をさして透明な液が出てきたら、アルミホイルを外して5分焼く。チーズが秋の稲穂の色に変わればできあがり！



合計(1個当たり)

エネルギー:100kcal 塩分:0.4g

1日の食塩摂取目標量は男性で8g未満、女性で7g未満です。



管理栄養士 齊藤 ちづる